



モバイル在宅妊婦管理などで 医療ITの最前線を牽引

瀬戸内圏研究センター 特任教授 原 量 宏

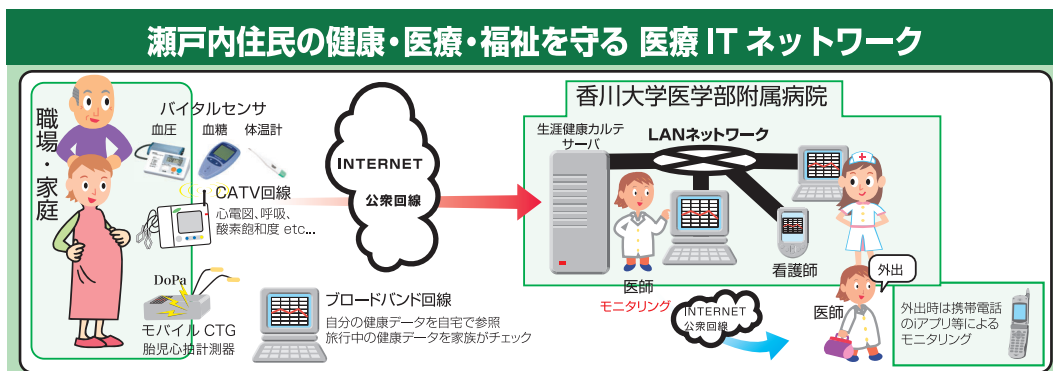
研究シーズの概要

さまざまな部門でIT化が進むなか、政府の2001年以降のe-Japan戦略に先駆け、さらに昨年からのIT新改革戦略など国の施策と相俟って、医療IT最前線を牽引してきているのが医学部附属病院医療情報部です。医療部門の電子化はその特殊性から難題とされてきていましたが、そんななか、香川は地域医療ITの全国最先端にあるとされ、原教授を中心としての「モバイル在宅妊婦管理システムと周産期電子カルテネットワーク連携プロジェクト」が注目されています。

このプロジェクトを支えているのが「かがわ遠隔医療ネットワーク」(K-MIX)。香川大学医学部附属病院を拠点に地域の医療機関が患者データを電送しあうことで情報を共有するなど遠隔医療のネットワーク化が図られており、同病院内のカルテとレセプトのデータは2006年からすべて電子化されています。K-MIXはITを用いた臨床試験支援システム(治験ネットワーク)の開発にも威力を発揮しています。

モバイル在宅妊婦管理システムは、胎児心拍転送システムを中核とするもので、妊婦さんが在宅のまま胎児の心拍数をモニタリングする機器のデータを携帯電話で担当医に送ることで診察が受けられます。2006年に秋篠宮妃殿下が通院が難しい状況下、このシステムで妊娠管理を受け無事出産されたことは記憶に新しいでしょう。

このモバイルの妊娠管理も含めての周産期管理ネットワークは経済産業省の医療ITプロジェクトに選ばれ岩手県、千葉県、東京都を結んだ実証実験が実施されており、将来的に全国展開が予定されています。これらITの活用による地域の医療格差の是正への貢献が認められ、原教授が国の平成19年度情報化促進貢献個人表彰で経済産業大臣表彰を受けています。



【利用が見込まれる分野】 医療機関、地方自治体、インターネット産業、保険業、情報通信業

研究者プロフィール

原 量 宏 / ハ ラ カ ズ ヒ ロ



メールアドレス hara.kazuhiro@kagawa-u.ac.jp
所 属 等 瀬戸内圏研究センター
職 位 特任教授
学 位 医学博士
研究キーワード 在宅妊婦管理, 電子カルテ, 地域医療ネットワーク, 医療IT, 遠隔健診システム

問い合わせ番号: ME-07-001

本研究に関するお問い合わせは、香川大学産学連携・知的財産センターまで
直通電話番号: 087-832-1672 メールアドレス: ccip-c@kagawa-u.ac.jp



周産期電子カルテのネットと連携

母子保健統計によると、現在の診療所と病院での出生別割合はほぼ拮抗していますが年間百万人の出生児の半分が近い将来、出生場所を失うとされています。また産科・婦人科医の減少や高齢化も顕著で、これらの社会情勢からも遠隔地域医療と生涯健康カルテを縦横の織り糸とする周産期管理ネットワークの確立が求められています。

今回の連携プロジェクトの目的は厚生労働省による全国の周産期医療のシステム化へ向けての病院と診療所の分業体制に適合したWeb 型電子カルテづくりと、周産期医療で特徴的な香川県、東京都、千葉県、岩手県の四地域にあったネットワークの開発・相互接続、並びに妊婦と医師双方が時間と場所を問わずリアルタイムに胎児の健康情報を交換できるモバイルによる在宅周産期管理システムの開発です。

四地域ではそれぞれWeb 版周産期電子カルテを利用した地域医療ネットワークの構築、Web 映像コミュニケーション技術を使った妊婦遠隔診療、モバイル端末による在宅管理システムの開発などに取り組んでいます。

これら四地域の実証モデル実験は、医師が全国どこにいても場所に拘束されず母体や胎児の健康管理ができ、異常発生時に適切な処置が可能な施設に対してすばやく正確な情報が提供できることを目指しており、ITによる医療の構造改革の実現につながるものです。

香川県の医療ITネットワークの全国展開へ

周産期電子カルテ・モバイル胎児心拍転送システムの統合 ～4 地域実証モデル実験から全国へ～

経済産業省 平成18年度「地域医療情報連携システムの標準化及び実証事業」

